イエスが遺したもの　ヨハネ 20:1-10	2024.4.14　丘の上 NO.723 春日部福音自由教会 山田豊

「虎は死して皮を残し、人は死して名を残す」とは、昔からよく聞く言葉です。獣の王者の虎は、死んでのちりっぱな毛皮を残すように、人は死んだあとに優れた名を残すように努力せよ、という名言です。

イエスの復活は、空の墓の存在と、イエスの死後新しいからだになって現れたイエスを見た人たちが、弟子たちをはじめ大勢いたということによって、これが確かな事実であることを知ることができます。聖書を見ると、実は空になった墓にあるものが取り残されていました。それは、体を包んだ布(亜麻布、ギリシャ語オトニア)と顔と頭を巻いた布(ギリシャ語スダリオン)でした。トリノの修道院に保管されている布は、体中に傷を受け、頭には茨の冠をかぶり、手を合わせたままくるまれたと思われる人の影が残っている布があります。十字架で死なれたイエスキリストをくるんだ布ではないかということで、聖骸布と言われています。今もなお、その真偽を確かめるべく、調査研究がなされています。

私はこの聖骸布研究の第一人者とされる、コンプリ神父様とお会いし、直接お話を伺うことができました。どうしても、聖骸布とされているものの真偽に思いが行ってしまいますが、お話を伺い、著書を読むことによって、教えられることがありました。イエスキリストを思いめぐらすことが無ければ、たとい教会の礼拝に集っていたとしても、それは何の意味もないということです。たといみ言葉を読んだり聞いて、それがイエスキリストと結びつけられていなかったら、虚しいことです。

イエスが葬られあと、最初の日曜日に墓に腰をかがめて入った弟子は、空気が抜けるようにしぼんでいる亜麻布と、顔と頭を覆っていた布を見て、信じたのでした(８節)。しかし９節には、聖書の言葉を理解できていなかったという不思議な言い方になっています。復活がまだ聖書のことばが結び付けられておらず、確信ではありませんでした。しかし、復活の主に出会い、聖霊に満たされてからは、復活の証人として大胆にみ言葉を語り始めたのでした。

復活された後の墓には、ご遺体をくるんだ亜麻布と布が残されていました。そののち天に上げられたイエスは、私たちのために、み言葉を遺してくださったのです。イエスご自身が神のことばであり、書かれた神のことばである聖書が今私たちの手元にあることは、イエスキリストが生きておられることの素晴らしい証です。

引用聖句

ヨハネ 1:14　ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。

２テモテ 3:16　聖書はすべて、神の霊感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。

１ヨハネ 1:1-3　初めからあったもの、私たちが聞いたもの、目で見たもの、じっと見、また手でさわったもの、すなわち、いのちのことばについて、2 ――このいのちが現れ、私たちはそれを見たので、そのあかしをし、あなたがたにこの永遠のいのちを伝えます。すなわち、御父とともにあって、私たちに現された永遠のいのちです。――3 私たちの見たこと、聞いたことを、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたも私たちと交わりを持つようになるためです。私たちの交わりとは、御父および御子イエス・キリストとの交わりです。

ヨハネ 20:5-7 の直訳

5:彼はかがんでのぞき込み、亜麻布(オトニア)が横たわっているのを見た。にもかかわらず、入っていかなかった。

6:そこで、シモン・ペテロも、彼の後について来ながらやってきた。そして、その墓の中に入っていった。そして、亜麻布(オトニア)が横たわっているのをじっくり見続けた。

7:また、イエスの頭のところには顔覆い布(スダリオン)があった。それは亜麻布(オトニア)と一緒には無く、離れた所に、巻かれたまま、一か所に置いてあった。

ヨハネ 11:44 の直訳

44:すると、両手両足が包み布(ケイラ)で縛られ、その顔が布切れ(スダリオン)で巻かれたままの死んでいた男が出てきた。イエスは彼らに言った。「彼をほどきなさい。そして、帰らせなさい。」

(白畑司インタリニアギリシャ語新約聖書)

亜麻布(リネン)とは

リネンはフラックスという亜麻科の植物から作られる天然の植物繊維で、発祥は紀元前 8,000 年頃といわれており、人類最古の繊維ともいわれるほど古くから使用されてきた繊維である。

特徴は

①しっかりとした素材で、他の自然由来の天然素材に比べて丈夫である。
②リネン生地は汚れが染みにくく落ちやすいという性質に加え、抗菌性を持つともいわれ、清潔に使用することができる。
③やわらかくさらっとした肌触りのよさをしており、また繊維が細く短いため毛羽立ちが少なく、衛生用品などにもよく使用されている。
④コットンの 4 倍ともいわれる非常に高い吸水率を誇る素材であり、吸水性だけでなく通気性や発散性にも優れているため、濡れてもすぐに乾くという特徴を持っている。⑤リネンの繊維は中が空洞で、空洞部には空気が含まれている。その空気が余分な熱を逃がすことで夏は涼しく、冬は中の空気が熱を保持するために温かく感じられる。

（ワードローブの HP より、要約）

聖骸布

「サクラ・シンドネ」（sacra sindone）とも呼ばれています。

聖骸布とは、聖書に、十字架に釘付けられ亡くなられたイエス・キリストの遺骸を亜麻布で包んで、墓に葬られたという記述がありますが、そのイエスの遺骸を包んだ亜麻布だと言われているものです。

長さ 4.36 メートル、幅 1.1 メートルあり、この布には、1 メートル 80 センチの男性の前面と背面の画像が映し出されています。

イエスの遺体には、当時の埋葬の習慣に従って、持ってきた「没薬と沈香を混ぜた物を百リトラ」（ヨハネ 19.39）塗り、亜麻布で包んだのですが、パレスチナ地方の乾燥した風土と、岩に掘られた墓穴というよい条件に恵まれ、イエスの遺体の画像が反転画像で、その布に映し出されたのだと言われています。

この画像の男性には、確かに十字架に釘付けられた傷跡や血の流れた跡などがあるので、イエスの姿だと言う人と、そうではないと言う人がいます。この真偽については、現在も調査中であり、論争中ですが、聖骸布の存在が発見されて以来、大変な尊敬を払われています。

フランスの大聖堂に安置されていたものが、1567 年にトリノ（イタリア）に移され、現在に至っています。聖骸布の公開を教皇が決定したことにより、2010 年にトリノの大聖堂で公開されています。

（Ladate キリスト教豆知識より）

スダリオ　手ぬぐい、覆い布

ヨハネ20:6にあるもう一枚の布は「手拭いなど」と訳される「スダリオ（sudarion)」である。スダリオは「頭にあった、頭を包んでいた、頭においてあった」と訳されるが、原文には「頭の上にあった」と書かれている。スペインのオビエドには、遺体の頭を包んでいたとされるスダリオ（手拭い）が聖遺物として保管されている

聖遺物

キリスト教の教派、カトリック教会において、イエス・キリストや聖母マリアの遺品、キリストの受難にかかわるもの、また諸聖人の遺骸や遺品をいう。これらの品物は大切に保管され、日々の祭儀で用いられてきた。聖遺物のうち聖人の遺骸については、正教会での不朽体に相当する。古代から中世において、盛んに崇敬の対象となった。

（ウキペディアより）